

果糖制限のすすめ

― 果糖はガンの悪性化を決定するかもしれない ―



佐藤 拓己 先生

SATOH Takumi

東京工科大学・応用生物学部・先端食品
アンチエイジングフード研究室 教授

1986 年 東京大学農学部畜産獣医学学科卒業
1988 年 東京大学大学院農学系研究科(獣医薬理学) 修了
1992 年 京都大学大学院医学系研究科(分子医学) 修了
1994 年 京都大学大学院 博士(医学)
1995 年 大阪大学タンパク質研究所研究員
1997 年 大阪バイオサイエンス研究所研究員
2001 年 岩手大学工学部応用化学生物工学科 准教授
2003-2004 年 米国バーナム研究所神経科学(リプトン教授)留学
2014 年 東京工科大学応用生物学科 教授
2024 年～ 早稲田大学エクステンションセンター・講師

果糖制限のすすめ

-制限すべきは果糖！糖質にあらず-

1970 年からの 30 年間で、アメリカ人は巨大化した。

この契機は、脂肪悪玉論である。脂肪を減らすために、異性化糖の使用を拡大した。

アメリカ人の肥満化の原因の大半は果糖である可能性が高い。

異性化糖は果糖とブドウ糖の混合物である。果糖は脂肪肝や肥満を引き起こすばかりでなく、ガンの悪性化も誘導する。本講演では果糖の生理的な役割を概観し、果糖制限の必要性を述べる。

2026 年2月 12 日(木) 17:00～

金沢医科大学医学教育棟 3 階 病理診断室



※オンライン併用開催

参加申込はこちら



kmug-pro@kanazawa-med.ac.jp

担 当 金沢医科大学臨床病理学 山田 壮亮 教授
問合せ 金沢医科大学 学事部大学院課

※次世代北信がんプロジェクト科目単位申請対象セミナーです。